

中部電力グループは、昨年公表した中期経営計画において、経営ビジョン2.0までの中間地点として2025年度をターゲットとした**中期経営目標** (連結経常利益※1,800億円以上、ROIC3.0%以上)を定めました。

目標設定初年度(2022年度)を振り返ると、期中では資源価格高騰等に伴う電源調達コストの増加により、中部電力ミライズ、中部電力パワーグリッドの収支が大幅に悪化したことで、一時赤字見通しとなるなど、大変厳しい状況となりました。その後、欧州の記録的な暖冬の影響などに伴い、資源価格が下落したことや、グループ全体での徹底した経営効率化施策の拡大、市場対応力の強化に努めてきたことなどにより、最終的には連結経常利益※が1,560億円程度となりました。

依然として、資源価格をはじめとする不透明な事業環境が継続することが予想されますが、いかなる状況下においても、燃料調達からお客さまに電気をお届けするバリューチェーン全体で、脱炭素など地球環境に配慮した良質なエネルギーを安全・安価で安定的にお届けするという「変わらぬ使命」をしっかりと認識し、グループ一丸となって完遂してまいります。

加えて、グローバル事業を加速するとともに、お客さまの暮らしを豊かにするサービスのお届け、地域の課題解決と活性化への貢献などによる「新たな価値の創出」に努めていくことで、中期経営目標の達成・経営ビジョン2.0実現を目指してまいります。

これら全ての取り組みは、お客さま・社会からの信頼があってはじめて成り立つものであると考えておりますが、託送業務で知り得た情報の漏洩や、公正取引委員会から中部地区などにおける特別高圧および高圧電力の供給に関して、独占禁止法違反の疑いを持たれたことなど、皆さまにご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。お客さまや社会からの信頼が事業運営の基盤であることを肝に銘じて、私をはじめ経営層が先頭に立ち、改めてコンプライアンス意識の深化に努めてまいります。

今後も、当社グループの行動規範であるCSR宣言に則り、事業活動を展開していくことで、お客さまや株主、地域の皆さま、お取引先をはじめステークホルダーのみなさまとともに、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

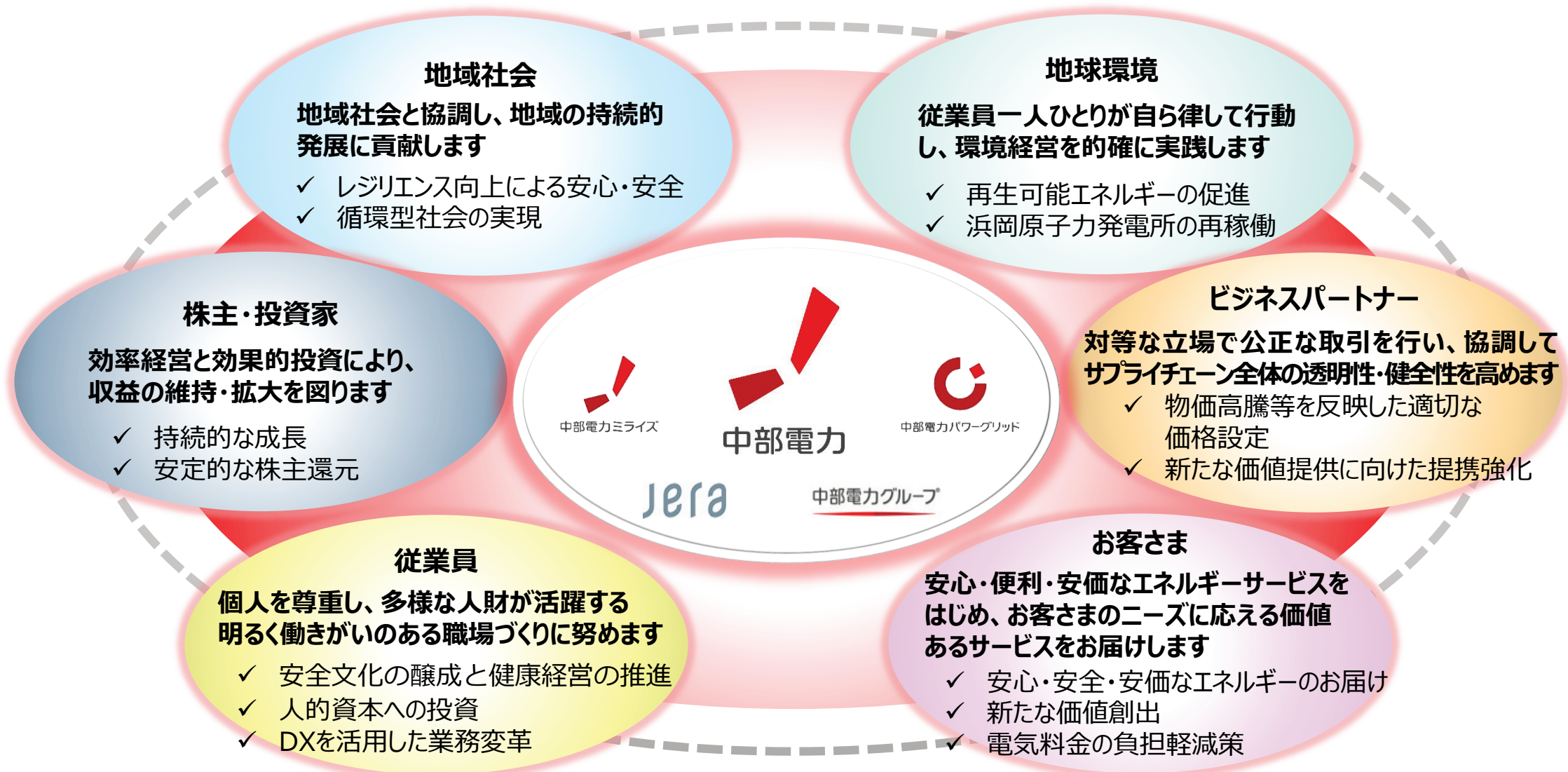


2023年 4月
代表取締役社長
社長執行役員

林 欣吾

ステークホルダーが求める価値のお届けに向けて

- 中部電力グループは、お客さま、そして社会とともに成長し続ける企業グループとして、それぞれの個性を活かしながらエネルギーを基軸とした事業に総合力を発揮し、安全を最優先に、安定供給を果たすとともに地球環境の保全に努め、**持続可能な社会の発展に貢献**してまいります。

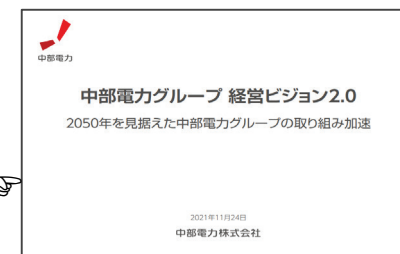


経営ビジョン2.0 および 中期経営計画

- 中部電力グループ各社が地域・社会の課題解決を起点に、全てのステークホルダーの皆さまとともに持続的な成長を実現するための取り組みをお示しております。



こちらをクリックして
ご確認ください👉



- 経営ビジョン2.0実現に向けた中間地点としての中期経営目標や、その達成に向けた取り組みを具体的にお示しております。



こちらをクリックして
ご確認ください👉



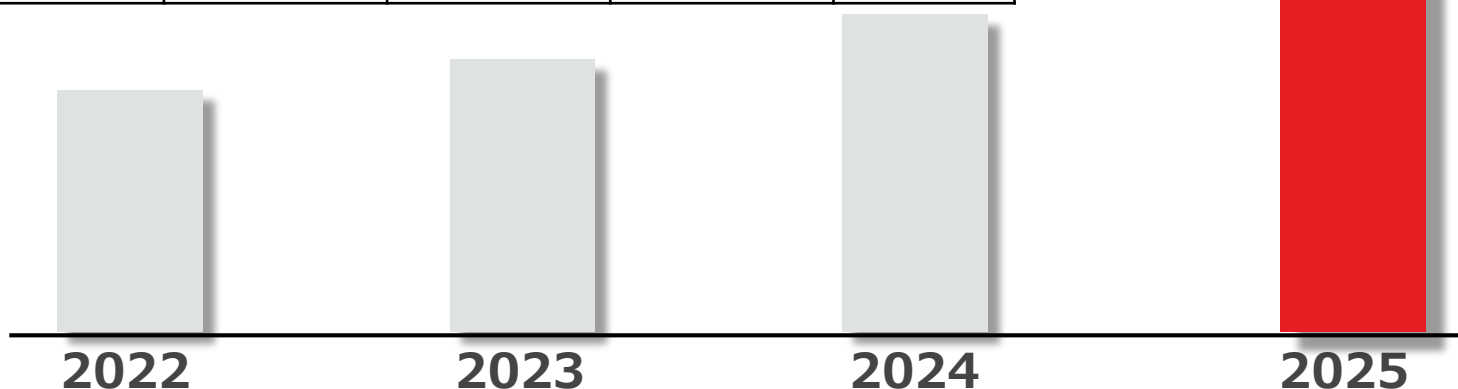
中部電力グループ 中期経営目標（2022年4月設定）



中部電力グループ中期経営目標

中部電力 ミライズ	中部電力 パワーグリッド	JERA	その他	合計
200~300億円	200~300億円	700~800億円	500~600億円	1,800億円

事業別内訳



**2025年度
連結経常利益※
1,800億円以上**

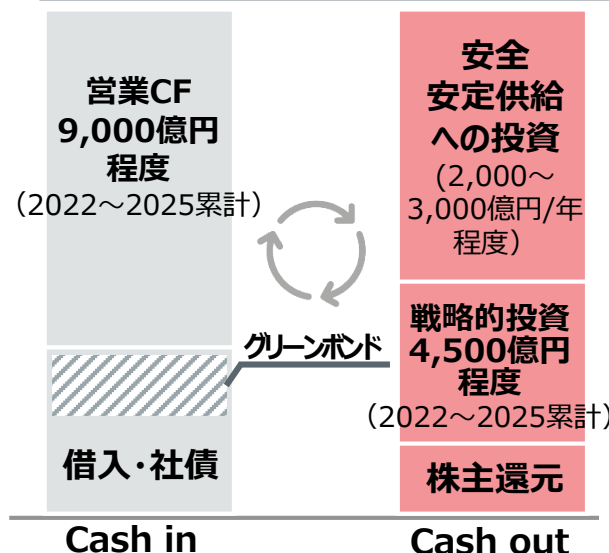
**ROIC※
3.0%以上**

※期ずれ除き

目標達成に向け目安となる財務指標

項目		2025年度
成長性	営業CF	9,000億円程度 (2022~2025年度累計)
	戦略的投資額	4,500億円程度 (2022~2025年度累計)
効率性	ROE※	7.0%程度
安定性	自己資本比率	30%以上を維持

投資・資本政策の考え方



<株主還元の考え方>

安定的な配当の継続を基本としながら、利益の成長を踏まえた還元を努め、連結配当性向30%以上を目指してまいります。